

令和 3 年 5 月 12 日

## 福島大学×あぶくま洞 あぶくま洞周辺の植物案内看板設置 学生の研究成果にもとづき、石灰岩地に自生する全国的に希少な植物を紹介

本学共生システム理工学類生物多様性保全研究室は、あぶくま洞管理事務所と協力して、周辺の石灰岩地の植物調査を進めてきました。その結果、環境省絶滅危惧 IB 類に指定されているヒナノキンチャクの国内最大級の生育地であること、あぶくま洞敷地内に貴重な石灰岩植物や草原生植物が生育していることがわかりました。観光や教育での活用や保全の推進のために、両者が協力して、あぶくま洞の敷地内の植物案内看板を設置しました。

石灰岩は炭酸カルシウムを主成分とする鉱物であるため、石灰岩地はカルシウムイオンが多い貧栄養の土壌となり、このような条件に耐えられる石灰岩植物と呼ばれる植物の生育が見られます。あぶくま洞やその周辺は全国でも有名な石灰岩地ですが、植物の調査はあまり行われていませんでした。

共生システム理工学類生物多様性保全研究室は、あぶくま洞管理事務所と協力して、あぶくま洞周辺の石灰岩地の植物調査を進めてきました。その結果、環境省絶滅危惧 IB に指定されているヒナノキンチャクが 1,000 株以上生育していることがわかり、当時大学院共生システム理工学研究科の大学院生であった加藤沙織さんらが論文をまとめて、2016 年に日本植物分類学会の学会誌『分類』に発表しました（付記）。その後も生物多様性保全研究室では学生の卒業研究として調査を進め、あぶくま洞敷地内にヤナギタンポポ、ヒキヨモギなどの草原生の絶滅危惧種や、イブキボウフウなどの石灰岩植物も生育していることが明らかになりました。これらの詳細な結果は、今後論文としてまとめられる予定です。

あぶくま洞敷地内の絶滅危惧種や石灰岩植物の観光や教育での活用や、保全の推進のために、生物多様性保全研究室とあぶくま洞管理事務所は協力して、あぶくま洞の敷地内の植物案内看板を設置しました。

今後は設置した看板を活かして観察会などを行うほか、あぶくま洞敷地内の希少種や石灰岩植物の保全策を検討するとともに、隣接する仙台平での石灰岩植物の調査を進める予定です。

（付記）ヒナノキンチャクの論文

著者：加藤沙織<sup>\*1</sup>・藤井伸二・山下由美<sup>\*1</sup>・根本秀一<sup>\*1</sup>・葛西英明・黒沢高秀<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 福島大学大学院共生システム理工学研究科大学院生

<sup>\*2</sup> 福島大学共生システム理工学類教授

論文題名：福島県あぶくま洞におけるヒナノキンチャク（ヒメハギ科）の大規模個体  
掲載雑誌、ページ：分類 第16巻第2号 211-216ページ  
発行年月：2016年8月

論文 pdf のダウンロード URL

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/bunrui/16/2/16\\_01602-14/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/bunrui/16/2/16_01602-14/_pdf/-char/ja)

看板の設置は「公益信託福島ふるさと自然環境基金」の助成を受けて行われました。



## 看板文面

### ヒナノキンチャクと石灰岩地の植物

あぶくま洞の敷地や周辺の石灰岩地には、全国的にも希少な植物や県内で絶滅が危惧されている草地生植物が生育しています。石灰岩は炭酸カルシウムを主成分とする鉱物であるため、石灰岩地はカルシウムイオンが多い貧栄養の土壌となり、このような条件に耐えられる特殊な植物の生育が見られます。この岩場と周辺は、そのような植物が生育する貴重な場所です。

### ヒナノキンチャク（ヒメハギ科）

7 ~15cm 程度の小さな植物で、名前は果実が巾着に似ていたことに由来します。夏から秋にピンク色の小さな花を咲かせます。全国的にも生育地が 20 ヶ所程度しかない珍しい植物で、国の絶滅危惧種に指定されています。あぶくま洞は数千個体が生育する、日本最大の生育地です。この岩場のほかにも、駐車場周辺やラベンダー畑にも見られます。

### ヒキヨモギ（ハマウツボ科）

夏から秋に黄色い花を咲かせ、他の植物の根から栄養を横取りする半寄生植物です。日当たりの良い草地に生えます。草原の減少に伴い、福島県の絶滅危惧種に指定されています。

### ヤナギタンポポ（キク科）

夏から秋に黄色い花を咲かせる、柳のように細い葉の植物です。日当たりの良い草地に生えます。草原の減少に伴い、福島県の絶滅危惧種に指定されています。

### ニシキウツギ（スイカズラ科） 6月

### カセンソウ（キク科） 7月

### クサボタン（キンポウゲ科） 8月

### 仙台平の植物

あぶくま洞の上には仙台平という石灰岩地があり、雄大な景観が広がっています。かつては石灰岩が浸食されてできたカルスト台地の光景が広がっていましたが、牧草地として利用するために造成されました。現在も草原として維持されており、四季折々の植物を楽しめます。特に春のアヤメの大群落は見物です。

### フデリンドウ（リンドウ科） 5月

### ヒメイズイ（キジカクシ科） 5月～ 6月

### ホタルカズラ（ムラサキ科） 5月～ 6月

アヤメ（アヤメ科）5月～6月

カワラナデシコ（ナデシコ科）6月～8月

この一帯は阿武隈高原中部県立自然公園、および国や市の天然記念物として保護されています。植物は採取、損傷をしないように観察してください。

製作：田村市あぶくま洞管理事務所・福島大学共生システム理工学類生物多様性保全研究室  
この看板は2020年度福島銀行ふるさと自然環境基金により設置されました

図に用いた画像のダウンロード先

<https://fukushima-u.omile.jp/public/K5SYQAUExA-AYoQBFen4r3P5ZGJs08z4oPLQixuBwzfq>

（お問い合わせ先）

共生システム理工学類教授 黒沢高秀

電話：024-548-8201

メール：kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp